

## 平成 26 年度博物館協議会議事録(要旨)

### 1 概要

日 時：平成 26 年 9 月 16 日（火）13:30～16:00

場 所：北九州市立自然史・歴史博物館 会議室

出席者：委 員：真鍋会長、泉副会長、伊澤委員、上山委員、木村委員、佐藤委員、  
染川委員、三島委員、柳井委員（欠席：岩松委員、森田委員）

博物館：伊藤館長、山家副館長、永元普及課長、松井歴史課長、  
真鍋自然史課長ほか

議 題： 1 平成 25 年度事業実績（博物館年報）について

ア 概 要

イ 特別展開催実績

○仁川広域市立博物館・旅順博物館の名品展

○まるごと猫展

2 平成 26 年度事業計画について

ア 概 要

イ 特別展開催計画

○THE モンスター展

○メタルズ展

○鉱物展

ウ ユニバーサルミュージアム化事業

エ 博物館ボランティア制度改革

○伊藤館長、真鍋会長、泉副会長、各委員より挨拶があった。

○会長の司会により議事が進められた。

○博物館より、議題 1、議題 2 について説明がなされた。

○博物館より、その他の報告事項として「東アジア友好博物館交流事業」、「北九州ジオパーク構想推進事業」、「NPO 協働提案モデル事業（小倉織）」について報告がなされた。

### 2 各委員による意見と質疑応答

※●は質問、○は意見

●「THE モンスター展」では「研究ノート」を作っており、書き込んでいく中で、自分で考えたことや自分自身で問題設定を行って記入する欄があるが、アフターケアをしているか。

【回答】特にしていない。それがあるといいと思うので今後検討する。

○去年入館者が大幅に増加したということだが、単発で終わらないためにも増加の要因を分析しなければならない。昆虫展もねこ展も客は入るが、来館者の男女比、団体か個人か、日本国籍か外国国籍か、そのような点に踏み込んで、傾向分析した方がよい。

○科博の「太古の哺乳類展」を見に行ったが、マニアックな展示会だと思った。観覧していた子どもたちも結構マニアックな話をしていて。そうしたマニアックな人びとを対象

にし、特別展の結果を分析すれば、さまざまな企画の作り方が可能ではないか。

○インターネットをさらに活用すべきだと思う。博物館は本物を見せる、現場で見せるということに意義があるのはもちろんだが、沖縄の離島の子どもたちが北九州の博物館に行くのは実際難しいし、インターネットで情報発信することで、いのちのたび博物館を知ってもらって、ディズニーランドよりもいのちのたび博物館！と言ってもらえれば、なおよいと思う。

●修学旅行で来館する学校は増加傾向にあるのか。PR を全国展開して、そのような情報を発信していく必要がある。修学旅行で来館するとりわけ高校生が増えれば、全体の来館者数もさらに増加するのではないか。

【回答】地域によるが増加傾向にある。多いのは広島県と山口県。広島県はスペースワールドと一組で訪れる場合が多い。修学旅行で北九州を訪れる学校が減り、社会的にも子どもの数が減少する中で、当館を訪れる学校数、人数が増えていることから、博物館が非常に好評を得ていることがわかる。

●普及講座について、自然史系は講座の数も多く、歴史系は少ないように思われる。何か理由があるのか。スタッフの関係か。

【回答】歴史系の場合、子どもたちを対象にしづらい現実もある。また歴史友の会とタイアップして講演会などを開催しており、補完し合っている面もある。

●歴史に興味がある子どもたちもたくさんいて、また北九州は歴史の宝庫なので、いろいろなテーマが設定できるのではないか。ほかに6年生の歴史学習、郷土の歴史を知るといったようなテーマ設定も検討してほしい。

【回答】「昔の道具調べ」学習など学校の授業の一環の取り組みもある。

○ボランティア制度について、「シーダー」の中には博物館学の勉強をしたいという熱意のある方が見られた。いかに事業や活動が充実しているかということの裏付けだと思う。また新たに導入を検討している資料整理補助組織について、展示等相乗的な効果があると期待している。一人ひとりがもっと学びたいという意欲で独自の活動をされているということもぜひご理解いただきたい。

○メールマガジンの新規登録者や購読者、ホームページなどでリンクをはっている方々、アンケート等でご意見をいただいた方々、ジオパークや協働提案モデル事業もそうだが、博物館をいろいろな意味で応援してくださる方々へもう少し働きかけ、投げ返しを行うと、リピーターも増えるし、面白い活動にもつながっていくと思う。

○モンスター展のワークシート用紙がとてもよかったと思う。大人一人の来館者も増えているような気がするし、大人がもらってもよいと思う。歴史系も同様で、これからの展覧会では、メモを取って記録することができるような用紙があったらありがたい。それがフェイスブックでの情報発信などにもつながると思う。

○同意見。すべての企画展に共通の形式で、2 穴があいていてファイリングできる用紙があって、それが蓄積されると知識も少しずつ増えると思う。

○上記について、サイズは A4 だと書くときに台が必要となるので、持ち運びがよいように、もう少し小さい方がよいと思う。紙物もよいが、SNS、フェイスブック、ハッシュタグなどの観点も考えてほしい。

○展示室内の教育プログラムをさらに学びにつなげることはできないか。例えば、展示と

ぬり絵が教育的にどのようなにつながるのかという視点が必要だと思う。鉱石の展示なら、自分と石の物語みたいなテーマで来館者に何か書いていただく、発信していただくことが有効だと思う。

○ユニバーサルミュージアム化事業は大きな予算（文化庁）がついている。来年度のことも考えながらぜひ頑張ってもらいたい。

○協働事業の小倉織について。久米島紬では結構面白い活動を行っている。冊子だけではなく、キットのようなものがあれば学校の先生が授業で使いやすいと思う。ぜひ調査に行ってみてはどうか。

●いろいろな事業を行っていて、相当な労力を費やしていると思う。今後ますます多角化していくし、利用者のニーズに応えていこうとすると、どうしてもいろいろなことを行うことになると思う。仕事量が増えていくと思うがどうか。多角化の一方で絞り込みも必要ではないか。多角化にしても、シーダーを始めいろいろな人びとを取りこんでいく必要がある。もっともその場合も総括する人材が必要になってくる。

【回答】おそらく仕事量は相当増えている。

○ねこ展などぜひ展覧会図録を作ってほしかったと思う。展示の実践報告でもよく、著作権の関係もあると思うが、薄くてもよいのでぜひ作ってほしい。

○天井の高さも含めて、世界に誇れる常設展示室だと思う。特別展だけでなく常設展でも、展示品を上手に活用したワークショップが有効だろう。自然史でも歴史でも両方できると思う。歴史系については、弥生時代の勉強をした後に本物の鏡を見たり、授業参観で土器を見せたりした場合の反応は大きい。あきらめずに、こどもに対して本物を見せていくことを追求してほしい。

○展示室が大変堅実な作りをされているが、一面華やかさが足りないという印象も受ける。デザイン性やアートの工夫が少しあるだけで、来館者の反応や客層が変わってくると思う。

○何かの化石展だったが、ねこ展も同様で、写真撮影コーナーの背景について、特別展の展示場が隠されている場合が多いが、奥まで見通せれば、ぜひ見てみたいという方も増えると思う。ぜひ実験してほしい。

○ワークショップなどの普及講座が充実していて素晴らしいと思うが、過去に実施した分についても一覧で示されていて、ホームページで見ることができるようにはしてはどうか。もう終わってしまっていて残念だが次は行きたいと思うような、レビューが見られるようなページがあった方がよいと思う。

●アンケートのフィードバックはどのように行っているのか。民博ではデータベース化されていて、分析しやすくなっている。そういうものがあったらいい。

【回答】毎年ほぼ同じ時期に展示交流員経由で実施している。ほぼ同じフォーマットなので経年変化を分析したり、リニューアル前後で比較したりすることができるが、館内で供覧しているだけで、館外には開示していない。今後の課題としたい。

○ワークシートについて。福岡市博物館の官兵衛展でもワークシートを実施していたが、こどもたちは最後に答え合わせをしてほしいので、その点も工夫できるといいと思う。

●シーダーには高校生や中学生は参加できないのか。学生に可能な範囲での、学ぶ機会、それを役立たせる機会、ボランティアの機会を与えるような内容があればよいと思う。

【回答】年齢の上限下限はないが、月に何回という活動日数が定められているので、小中学生では難しい。昨日も大学生がインターンシップとして博物館で活動していたが、担当講師も大学生がボランティアとして博物館に関わることができるシステムができればよいと思うとのご指摘をいただいた。今後考えていきたい。

- 教員などの職員研修も受け入れているようだが、どのような内容で実施しているのか。こどもたちが多人数来館する際に解説するようなシーダーの役割があってもよいと思う。

【回答】中学・高校の先生方には初任者研修、3年次研修、10年次研修など、社会体験としていずれかの施設で研修を行うことが義務付けられている。夏休みに実施するので、MTが行う体験プログラムの補助についていただいている。来館者対応など日常行わないことも経験してもらっている。

- ワークシートについては、一問一答ではない、親子で会話するようなものもあってよいと思う。これからまた議論しましょう。

### 3 会長のコメント

- ①東アジア友好博物館交流事業について。東アジアの友好協力関係は今の時代だからこそ重要で、次の5年間も交流事業が継続されるのは素晴らしい。今後の特別展についても、海外の方を意識していくことも新しいあり方として期待される。
- ②ボランティア制度について。一人ひとりが自分の活動している、大好きな博物館として、さらにまた人びとをいざなうような仕組みがもっと強化されるとよい。
- ③インターネットでの情報発信について。特別展・企画展の「メモ」も同一形式であれば、スキャナーで読み込んで共有できる。図録に匹敵する内容紹介をホームページに掲載して、それを印刷して綴じるといったような方法もある。
- ④仕事量が増えていくことばかりかもしれないが、もう少し工夫するだけでも、日本・世界に先駆けた発展が期待できるのではないか。

会議終了後モンスター展の視察を行った。

(議事録要旨作成：日比野利信・守友隆)